



The un-designed journey

Taki full+

"Mallorca House" @Futaba City (vol.2)



コンニャクヤ島



〈時別編〉

たき火でマインドフルになる山荘の旅

季節は廻る

首元から汗を摑つたあの日の南風

日々を歩む刹那の折に
狭い頭上の寒空へと差掛かつた

大人になつた私たちにとつて
この冬は何度目の出来事だろう

繰返す景色を日常と呼ぶならば
それは人の夢にして
止水が写す時の牢獄

世界が閉じてしまいそうになつたら
勇気を出して出かけよう

ここに認める一節は
あなたの手を引くささやかな旅の栞

大丈夫

大切なのは何処に行くかではない
傍に誰がいるかだ

共に行こう

たき火でマインドフルになる旅へ

The un-designed journey Taki full+

"Mallorca House"
@Futtsu City (vol.3)



時は令和五年十二月十七日。

ぼくたちは、房総半島にいた。

「たきふる」と呼ばれるこの旅は、今

年で三年目になる。たき火でマインドフルになるから、たきふるだ。今回は、そんな「たきふる」の特別な二日間にについて紹介しよう。

そう。今回は特別なのだ。

たきふる原理主義者によれば、この旅の目的地は、神奈川県は秦野市、BOSCOと呼ばれる聖地に限られる。

たき火さえあれば、どこでも良いといふわけでは決してない。しかし、色々あつて、今回は都合がつかなかつた。

さらに、今回は特別だ。

なんと、この旅では、たき火ができなかつたのだ。吹き荒れる強風、白波だつた海岸線から水しぶきが頬をかすめる。一棟借りをした別荘の管理者から、たき火を強く控えるよう進言された。絶句する池田P。荒れ狂う車中。

だからぼくたちは、今回の旅を「たきふる+」という特別回に位置づけた。普段できないセルフケアをしよう。舞台は千葉県富津市。マルヨカハウス。

さて、あたたかい晩秋の朝に、二手に分かれて目的地を目指そう。美味しいものを見て、遊び、少し眠つたら、またご飯を食べて、遊ぶ。そんな日々の中に、本当の心のケアはあるのかもしれない。ゆとりこそ正義。無駄にこそ価値がある。この真理、火を見るよりも明らかだ。

ところで、ぼくたちは、たき火でマインドフルになる旅のほか、夏には千倉でチルアウトする旅、「ちくちる」を企画している。



chill out vol.3

集いたまえ、禊祓いたまえ。

たきふる編集部
ゴーストライター



旅のはじまり



横浜は妙蓮寺。全てはここに始まり、ここに完結する。ゆつたりとした朝は暖かく、今日は気温が21度まで上がるらしい。コートを持参したが、羽織ることもなさそうだ。

池田Pは、今朝から畑に野菜を採りに行つてきたそうだ。茎ブロッコリーを片手にはしゃいでいる。



時刻は十時半。平賀Dがハンドルを握る車両が到着する。数々の旅を共にしてきた車には、汚れがたまっていた。ほら、池田くんが拭かないから窓がよごれちゃったよ。



Ikeda SOSO



もう一方の出発地点。レンタカーを借りた大岡Dが蒲田を中心継地にして千葉に向かっている。ときーは起きただろうか。ほら、やつぱり寝てた。
お茶とカフェラテと梅干しを補給したSANAE氏も同乗している。朝はやく仙台を出た、こん氏も無事合流したようだ。ピックアップに苦戦したようだが、先にアクアラインを超えた先で、寿司をつまんで待つていよう。



海辺で食べる海鮮はやっぱりおいしい。さつき寿司たべたけど、次はピザ食べようぜ。あれ、大岡Dピザ食べてると?



海辺のランチ

みんな、久しぶり！

この度のメンバーが、初めて一堂に会したのは、フェリー乗り場周辺の海辺だった。

昼ごはんをたべたら、少し自由時間だ。焼きたてのバウムクーヘンは美味しい。海の風を感じるのもいいだろう。しばらくしたら鋸山に向かうから、ここで一度、小休止。



そんな折、強風でロープウェイも止まつてしまつたとの報告を受ける。聞けば車で山頂付近まで上がるそうだ。有料道路で上がつてしまおう。乗り遅れた奴はここで終了だ。ここからは、己の足で歩め。

鋸山で遊ぶ



山はいいよなあ。山はいいよね。山の素晴らしいに気がついたのは最近のこと。長い階段で展望台を目指して登る。聞けばかなりの絶景らしい。



鋸山には、いくつかの見所スポットがあるそうだ。参拝料を支払って、スポットをまわってゆく。



もともと石切場であったことから、垂直に切り出された山の斜面が西日に照らされる。





山頂からの眺めはすご
かつた。SANAEE氏は石の上
でガクブル。マジな顔をし
ている。スペースマウンテ
ンあんなに楽しそうだつた
のになぜ。

壁面の大仏さまを拝み、
足元に注意しながら下山し
てゆく。



時刻は十六時をまわったこ
ろだろうか。これまで三度
の「ちくちる」で登れな
かつたから、大満足。でも
まだ行けないスポットも
あるから、また次回行こう。

山をおりたらいよいよ宿へ。
宿近くのスーパー「吉田屋」
に寄つてから、マルヨカハウ
スへ向かおう。調味料は最低
限。バーベキューの肉、うど
ん、安納芋、そしてマシユマ
ロを買えばOKだ。大岡のが何
やら甘味類を揃えている。何
が出来上がるのか、楽しみだ。



マヨルカハウス

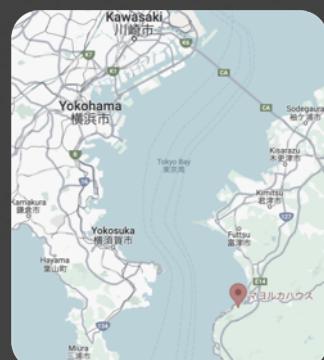
池田Pが急遽、探し出してくれた貸別荘。

その外観は豪勢な一軒家住宅だが、内装は

別荘にふさわしく、シックなゲストハウスのようだ。宿泊定員は8名とのことだが、

これ10人きても大丈夫じゃね?

キッチンはフル装備でオーブンまである。風呂場は大理石、サウナ付き。バークウンターから料理を出し、そこでゲストは愛を語るが、疲れた者はソファードで寝る。



立地は海辺の高台にある。アクアラインから近くまでフェリーで向かっても良いだろう。
賀から近くまでフェリーで向かっても良いだろう。

Second floor

二階には浴室とサウナ、卓球部屋

一階で食べるだけ食べたら、二階で遊ぼう。もう酔っ払ってるけど、頭も身体も働くぜ。卓球、謎ダーツ、カードゲーム。窓から見える、向こう東京の星空は、96点ということだ。



bedrooms

ベッド2つの部屋が2つ、4名の和室がある



皆が寝静まった頃に「もう寝た？」と誰かが言う。
「次喋ったやつ負けな！」と言ったやつが喋る。
そんなやりとりを続けてきたが、今年は皆が疲労困憊。枕に吸い込まれてゆく。おい誰だ、坂本と成島の枕くっつけたやつ。



ウッドデッキとBBQ

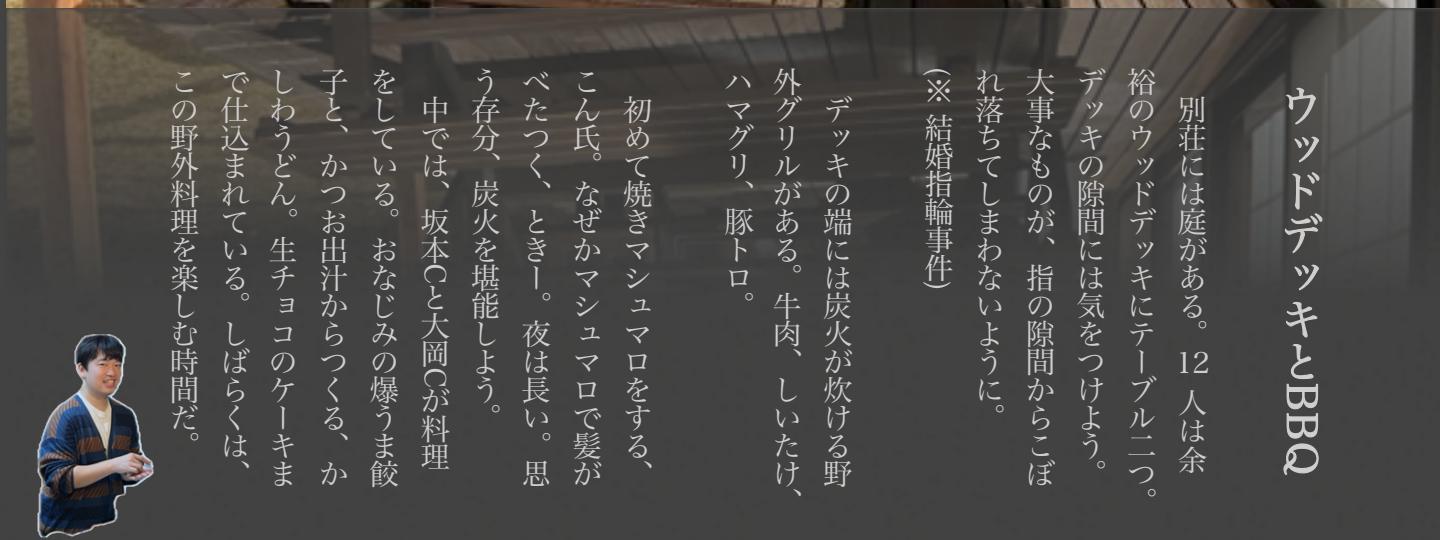
別荘には庭がある。12人は余裕のウッドデッキにテーブル二つ。デッキの隙間には気をつけよう。大事なものが、指の隙間からこぼれ落ちてしまわないように。

(※ 結婚指輪事件)

デッキの端には炭火が焼ける野外グリルがある。牛肉、しいたけ、ハマグリ、豚トロ。

初めて焼きマシュマロをする、こん氏。なぜかマシュマロで髪がべたつく、ときー。夜は長い。思う存分、炭火を堪能しよう。

中では、坂本Cと大岡Cが料理をしている。おなじみの爆うま餃子と、かつお出汁からつくる、かしわうどん。生チヨコのケーキまで仕込まれている。しばらくは、この野外料理を楽しむ時間だ。



ドリンクは飲み放題と言つてい
い。焼酎やウイスキーをソーダで
割つていくスタイルがアルコール
組の主流だ。

炭を起こしながら、それを見に
静かに乾杯する。屋外のデッキに
は、全体を明るく照らすライトが
あるから、怪我する心配もない。
ほら、グラス空いてるよ。次な
にする？ハイボールいつちやう？



猫舌なやつは気をつけよう。
「どちらか」というと猫舌」みた
いなやつも、気をつけた方がい
い。炭火で焼いた焼きたての食
材たちが、その場で運ばれてく
る。牡蠣やホタテ、カニなんか
を焼いても美味しいだろうけど、
ここはハマグリに椎茸、鶏肉と
淡白にいきましょう。間に挟む
はみたらし団子。それも乙なの
です。アリということなのです。



さて、もうそろそろ部屋に入ろうか。ここからは、ダイニングを楽しみたい。

熱燗もよかつたが、今宵は暖いからハイボールをキメよう。少し肌寒くなるまで、内房の夜を楽しむ。

時間の使い方はいつだって自由だ。テーマもなく、そこで好きにすればよい。

夜風を浴びて星空眺めるもよし、肉を焼いたっていいだろう。



乾杯

キッチンからいい香りがする。

余った肉から旨味を出した、うどんのつゆが仕込まれている。まだまだ飲むぞ。

あすかさん、途中で急に電話かけてごめんね。次は一緒に行くしかないってことよ。



ぐろさん、急に電話かけてごめんね。おもしろかったぜ。これまさしく、次は一緒に行くしかないってことよ。



入りきらない写真は、巻末のフォトギャラリーに譲ろう。

全てのシーンを共有するためには、やはり一緒に来るしかないものである





就寝

そろそろ寝ようか。ほら、もう夜中も一時をまわつて。順番にお風呂に入つて、髪を乾かして寝床に入つてゆく。

ときー、ベッドで寝ないと風邪ひくよ。ちゃんと髪乾かすんだよ。



こんなとき、手慣れたオリジンは坂本をのぞいて寝るのが早い。あと、大岡くんは電気消そ？



気づけばマルヨカハウスも闇に包まる。外に出て、オリオン座を眺めながら、一日を思い返していた。そういえば、チヨコケーキまだ食べてないな。明日にするか。

旅先であまり夢を見ないのはなぜだろう。理由は定かではないが、きっと充実した一日だったからに違いない。

夢をみると、もう夢のような一日を体験してしまったのだから、寝ている間に見るものがない、ということだ。

もし仮に、旅先で夢を見るとするならば、それは今日という一日の振り返り。きっと神様が訪ねてくるはずだ。

今日一日、

「たきふる」はどうでしたか？ つて。





あなたにとって
「たきかる」とはなんですか？

「たきふる」とは？

まあ酒だよね。あと、みんなでやるゲームいいよね。いつもと違う場所で飲むのが楽しいと思う。あたしは、どっちかというと家でゴロゴロしたいタイプだけど、チェックアウト遅いし、こういうのはアリ。ハイボール入れてさ、ずんだ餅ちょっと隅で炙るのとかいいよね。そんなのしてたら結局さあ、ソファーで寝ちゃうよねー。

Ryoko, T

私はまあ、冬の女だから？

やっと季節が来たって感じかしら。旦那が餃子焼いてくれるし、忙しない年末がくる前に、ちょっと羽伸ばせるって旅行かな。え？ 餃子とかご飯作ってくれるのは、いつもだけど？ まあいいじゃない。羽伸ばしまくって羽ばたくんだから。そういえば、旦那が料理してると、外した結婚指輪を預かるのはもうやめたわ。だって無くしちゃうじゃない。あれ、マジで見つけてくれてありがと。

Sanae, O



みんなに会える機会が少ないので、実は嬉しいの。わたしにとっての「たきふる」は、秋が来るとやってくる、年に一度のイベントかな。ドライブも慣れてきたから、運転も頑張れる。万が一のときは任せて！ 今は値段がすごいからあれだけ、仙台で牛タン買ってくるから。BBQしよ！ あと、まろやかコーヒーも淹れてあげる！

Ayumi, H

運転とか、大人数で食べもらえる料理を作る。冬は食材が痛んだりしないから、いろいろできて楽しい。いつもと一味違う日常というか、普段からやってる好きなことが、ちょっと特別になる日かもしれない。最近運動不足だから、山登れたのも良かった。忙しないツアー旅行とは違って、道に迷ったりしても全然いい…そんな気兼ねない感じがいいよね。まあ餃子たべなよ、君たち好きだよねこれ。

Shuunske, O



「たきふる」とは？

名前が付くぐらいだから、「たき火」することかなって思いがちだけどさ、意外と朝のコーヒーなんだよね。爽やかな空気と景色を前にして、ウッドデッキに座りながら、淹れたてのコーヒーを飲む。昨日のたき火も、これから思い出も、意外とあの一杯にぎゅっと詰まってるんだよ。おれ的にはBOSCOの空気が好きなんだけどさ、これはこれでアリ。ま、今回は「マルデイ」だね。

Masaki, F



「たきふる」の”さしすせそ”、教えてあげよっか？酒と刺身でしょ？そんで、椎茸に、せうゆ。ソースとかはいらんのよ。わさびと柚子胡椒があれば肉も魚もなんでも美味しい。たきビストとしては、やっぱり、たき火があってこそその「たきふる」だけど、今回はそれもんが、あれもんだから、いいってことよ。あとこれ酢だから！みりんじゃないから！

Kento, N



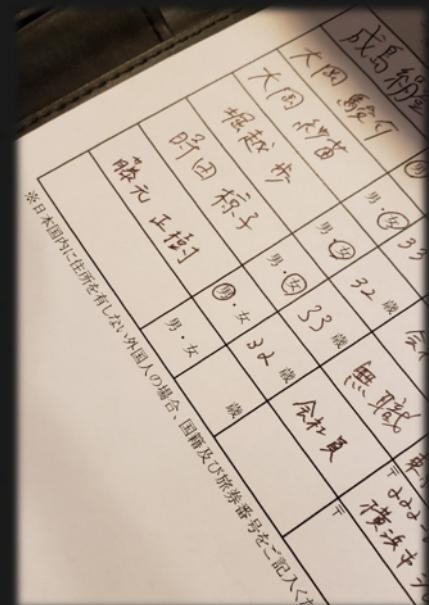
ぼく、結構好きなんだよね、たきふる。自然のなかの、冷たい空気をスープと吸い込んだ時の感覚が、遠いところに遊びにきたっていう非日常の感覚を掻き立ててくれる。それに食欲の秋。あつたかい出汁とか、クリーム系のソースとか、季節感のある料理ができるというのも、夏の旅にはない特色。火を見て、炙って、五感で自然を感じる。それが僕にとっての「たきふる」かな。

Jiro, S



「たきふる」ね！まあ、冬の定期イベントってところかな。予約さえとれたら、あとはダラダラするだけだし、「今年もこの季節か」っていう安定感が出てきたよね。畑で採れた野菜を持っていくて、みんなで食べるとかそういうのができてきたのは成長を感じる。だいたい途中で寝るし、だらだらする特別な休日って感じかな。ま、次も予定たてるから、気兼ねなくきたらいいよ。あ、そういうえばセトリー忘れたわ。

Ikeda, P



新しい一日

おはよう。ぐっすり眠れたい朝だ。時刻は九時といつたところか。チェックアウトまでしばらく時間がある。コーヒーアウトまでしばらくませよう。朝の一服も至高だ。



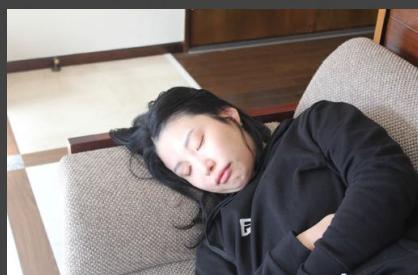
朝食には、昨日食べきれなかつた、うどん。そして、チョコレートケーキのデザートつきだ。ホットサンドの準備もあつたけれど、もうお腹いっぱいだ。明日にしよう。



こんちゃん、さなえちゃん、コーヒーを淹れてくれてありがとうございます。おいしかった、おやすみ。



外食したものと合わせて、食材費、あれだけ食べてひとり三千円くらいだったのではないだろうか。それでこの贅沢である。



荷造りを済ませ、出発の準備にかかる。今日向かうのは、マザー牧場だ。昼ご飯は牧場で食べて、ゆっくりと帰ろう。

そういえば、玄関とウッドデッキの靴とスリッパが揃っていた。どうやら今朝、マルヨカハウスには妖精さんがきていたらしい。



ときなるは寝て いるので、集合写真を撮るために集合ができない。時間まで、昨日の結婚指輪事件の現場検証をしておこう。



マザー牧場

いよいよ出発だ。遠くに富士山までもが見える青空のなか、わたしたちはマザー牧場を目指した。



途中コンビニに寄つた以外は、まつすぐと曲がりくねつた山道を進む。安心感しかない、安全運転だ。抜かれたバイクを煽つたりなんかしてないよ？

マザー牧場にはいくつか入口があるようだが、観覧車が目立つ駐車場に入る。平賀の車が先に到着だ。羊をみてから、ジンギスカンを食べようか。



動物がたくさんいる、のんびりとした場所に来るのはいつぶりだろう。もしかすると、まだ幼い子どもたちのころ以来かもしれない。気がつけばもう、チケットは大人だ。



羊も馬もカピバラも、みんなかわいい。ぼくたちも、日向ぼっこをしながらのんびりと暮らす、そんな生活をすることはできるだろうか。君たちは普段、一体なにを考えて生きているんだい？



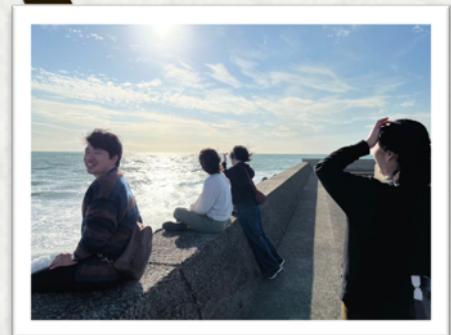
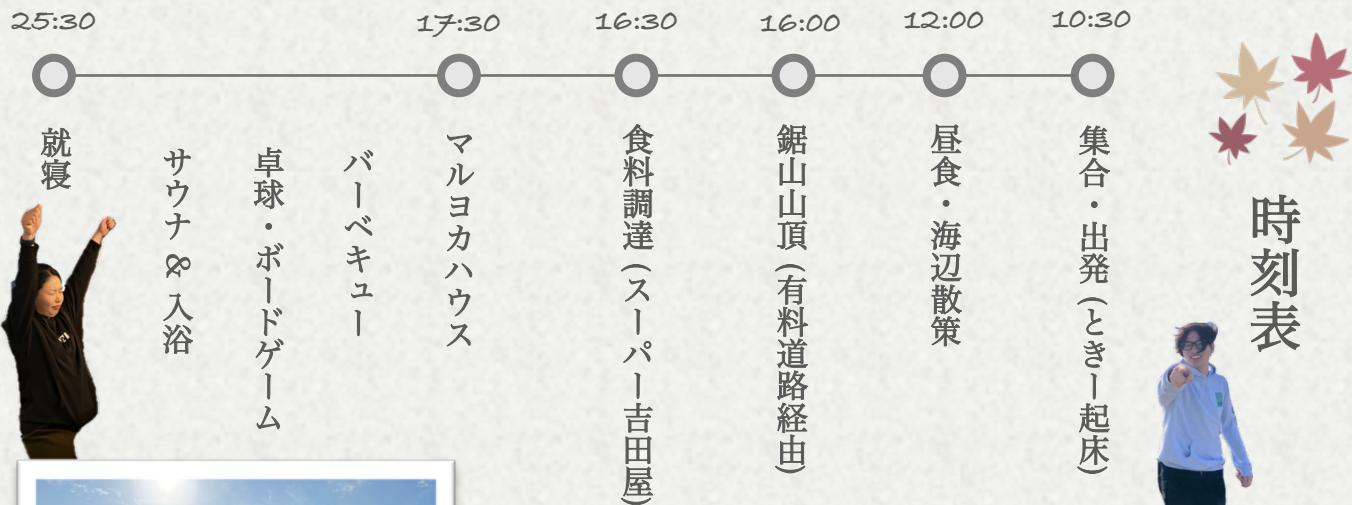
マザー牧場にも、たくさんの方や催しものがあった。牧場で食べるソフトクリームは大体おいしいから、ソフトクリームは絶対に食べよう。景色もすごくいい。ここは本当に千葉なのだろうか。

たくさんの動物たちや牧場の景色は、これまた良い写真がたくさんあるから、巻末のフォトギャラリーに譲ろう。お昼ご飯を食べたら、おみやげ選んで、そろそろ帰路につく時間だ。帰りはアクアラインから。デブリーフィングもしれないといけないからね。

こん氏は、仙台に帰る新幹線の時刻が迫ってきていた。旅の日は、いつもあつという間だ。

こぶたさんたちが走るレースがあるらしい。子どもたちが騎手となつて、ぶたさんのお尻をペンペンしながら優勝を目指す。賭けるは6番、ハッピーフーム。名前がいいよね。おれたち、野菜育てるからさ。







Photograph Collection

Mindful days.
Time heals everything.



Lunch time over the sea



Lunch time over the sea



Lunch time over the sea



Lunch time over the sea



"Nokogiri" Mountain



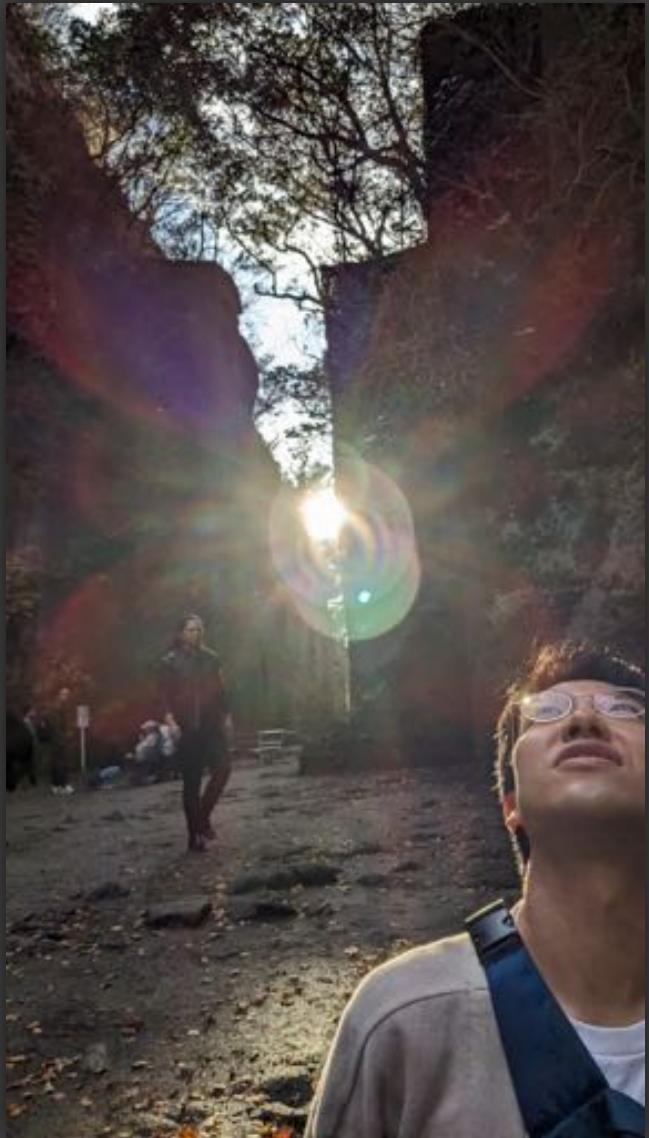
"Nokogiri" Mountain



"Nokogiri" Mountain



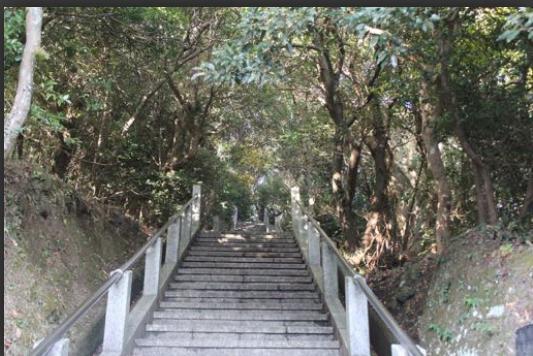
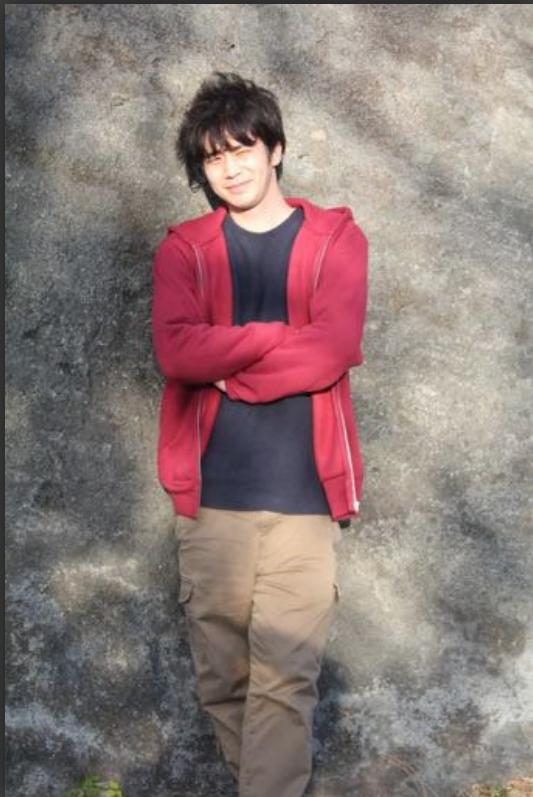
"Nokogiri" Mountain



"Nokogiri" Mountain



"Nokogiri" Mountain



"Nokogiri" Mountain



"Mallorca House"



"Mallorca House"



"Mallorca House"



"Mallorca House"



"Mallorca House"



"Mallorca House"



"Mother Farm"



"Mother Farm"



"Mother Farm"



Other



Other



Best Photographs



Taken by Kento Narushima

Best Photographs



Taken by Jiro Sakamoto

Best Photographs



Taken by Masaki Fujimoto

Memory

今回も、かなりよかったです。

今年の「たきふる」は、いつもと景色が違った。山というか海。秋なんだけど、見てきたものは青だったんだ。なんだか一年間を閉じ込めたような、一日⁺のセルフケア。マルヨカでもいいじゃない。こんな年があるって、素敵な思い出になる。

また来よう。来れるかな。きっと来れる。

大丈夫。

おれたち、野菜も育ててるからさ。

人に出会い、自然に出会い、解放された心が、来年の夏に向かってゆく。思い返すと、やはりいい旅だった。

ああ…、あした仕事やめようかな。

Next Journey

旅はデザイン。赴くまでは見えない世界について想像し、計画を立てる。もちろん、計画通りにいくことなんてない。思いがけないハプニングや出会い、偶然のなかに、旅の醍醐味が生まれてゆく。

Planner, Photographer
Driver, Chef, Assembler, Alcohol...

わたしたちは、それぞれの「好き」や「得意」を持て余しているから、新たなゲストを自然に受け入れることができる。

持ち物は心意気。ちょっとぴりシャイなやつが多いから、これを読んで興味を持ったあなたは、ぜひ声をかけて欲しい。

次の旅はもう始まっている。共にゆこう、あの光の差す方へ。



File: 20231217_Taki full+(vol.3)
Written by Taki full editor 2023

The un-designed journey
Taki full+
"Mallorca House" @Futtsu City (vol.3)



コンニャクヤ烟

Summary

Access: ★★★★★★
Price : ★★★★★★
QOL : ★★★★★★